

<p>鳥取県教育振興基本計画の推進に関する 平成22年度アクションプランの「中間評価」結果 と アンケートによる教育関係者評価結果の状況</p>

施策の方向性1「生涯にわたって自ら学び、社会全体で子どもたちを育む体制づくり」 ・ 1

- 1 社会全体（学校・家庭・PTAやNPOなど各種団体・企業・地域社会・行政）
で取り組む教育の推進
- 2 教育の原点である家庭教育の充実
- 3 活力ある地域社会をつくる生涯学習の環境整備と活動支援

施策の方向性2「「知」「徳」「体」のバランスの取れた学校教育の推進」 ・ ・ ・ ・ ・ 2

- 1 学力向上の推進
- 2 豊かな人間性、社会性の育成
- 3 健やかな心身の育成
- 4 社会の進展に対応できる教育の推進
- 5 幼児教育の充実
- 6 特別支援教育の充実

施策の方向性3「学校教育を支える教育環境の充実」 ・ ・ ・ ・ ・ 5

- 1 児童・生徒減少期における学校の在り方
- 2 教育現場の創意工夫を活かした特色ある学校運営の推進
- 3 使命感と実践力を備えた教職員の養成・確保・配置
- 5 私立学校への支援の充実
- 4 安全・安心な教育環境の整備

施策の方向性4「文化・芸術の振興と文化財の保存・活用」 ・ ・ ・ ・ ・ 7

- 1 文化・芸術活動の一層の振興
- 2 文化財を大切にし、身近に感じ、親しむことができる地域づくり

施策の方向性5「スポーツの振興」 ・ ・ ・ ・ ・ 7

- 1 心豊かで活動的な地域スポーツ社会の構築

施策の方向性6「鳥取県教育振興基本計画の推進に向けた体制づくり」 ・ ・ ・ ・ ・ 8

- 1 県民との協働による開かれた教育行政の推進
- 2 市町村、国、高等教育機関など関係機関との連携・協力の推進

1 生涯にわたって自ら学び、社会全体で子どもたちを育む体制づくり

(1) 社会全体(学校・家庭・PTAやNPOなど各種団体・企業・地域社会・行政)で取り組む教育の推進

【 目指すところ 】	H22			H21実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
社会全体で子どもたちを育む教育力の向上	B	a	・地域の特性を活かした多様な取組が見られる等、強調月間により家庭教育推進協力企業数が大幅に増加したほか、各種事業とも順調に実施中。	B	b
地域全体による学校支援	B	b	・学校支援地域本部に取り組む市町村で効果が認められ、その設置も5市町村から7市町村に増えたほか、各関係団体等へ働きかけにより、各種事業が順調に実施中。	B	c
学びの主体者を育成	B	a	・各事業ともほぼ順調に実施中。住民が人権を自分事として捉え学ぶ学習を目指して担当者の研修の機会を提供するとともに、全市町村において小地域懇談会(集落単位)が開催(予定)され人権学習が行われている。	B	b

(2) 教育の原点である家庭教育の充実

【 目指すところ 】	H22			H21実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
家庭の教育力の向上	C	b	・資料の効果的な配布方法・セミナーの開催時期などを検討した上で、実施予定。PTA研修会や市町村合同研究協議会で研修や情報提供に努めたが浸透は不十分	B	c
社会全体による家庭教育の支援	B	b	・効果的な資料の配布方法・セミナーの開催時期などを検討した上で、実施予定。社会全体で支援することの必要性に理解を示される人たちが増えてきた。	B	c

(3) 活力ある地域社会をつくる生涯学習の環境整備と活動支援

【 目指すところ 】	H22			H21実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
生涯を通じて学ぶことができる環境づくりの推進・今日的課題について生涯学習機会の提供	B	b	・とっとり県民カレッジ主催講座の受講者数は、定員はオーバーしたが昨年より減少。また、担当者の力量を高めるために研修の場を提供した。	B	c
人権学習の推進	B	a	・人権教育企画者実践講座の参加者の満足度が86%であった。また、担当者の研修の場やプログラムの提供を行った。	B	b
読書活動の推進による知の地域づくり	B	a	・読書活動の重要性が認識され積極的な取り組みが見られるなど、各事業とも順調に実施中	B	b
公民館等社会教育施設の機能の強化と利用促進	B	b	・職員の力量を高めるために研修の場を提供するなど、各事業とも順調に実施中。	B	c
図書館機能の充実	B	a	・県民の情報拠点、生涯学習拠点、知的ネットワークの核として県民に役立つ図書館づくりを概ね計画通りに進めている。	B	b
博物館機能の充実	B	b	・終了した企画展や普及事業には多くの方に入場していただき、満足度も高い。	B	c
高等教育機関との連携促進	B	c	・高等教育機関と公共図書館の所蔵資料の相互利用環境が整備されている。また、大学による講座・セミナー等は計画通りに実施できた	B	c

2 「知」「徳」「体」のバランスの取れた学校教育の推進

(1) 学力向上の推進

【 目指すところ 】	H22			H21実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
学校と家庭が協働した学力向上	B	a	各事業とも順調に実施中。	B	b
自らの将来に夢や目標を持ち、主体的に学習する児童生徒の育成	B	a	・H22年4月実施の全国学力・学習状況調査の結果将来の夢や目標を持っている児童の割合が増加した。県立学校でも裁量予算を活用して独自の事業を実施中。	B	b
基礎学力の確実な定着とさらなる伸長	B	a	・「とっとり学力向上支援プロジェクト」の活用により、全市町村で学力向上に向けた独自の取組を展開中。 ・全国学力・学習状況調査結果が、小・中、国、算・数ともに全国平均を上回った。 ・県立高校では、2年生を対象とした合同勉強合宿や英語弁論大会を実施した。		
教員の授業力向上	B	b	・エキスパート教員の認定者数の拡充とともに、授業公開等による優れた指導技術の普及を推進し、所属校を中心に教員の指導力向上に成果があった。 ・県立高校では、学校の枠を超えて教員同士が切磋琢磨する機会を増やした。	B	b
カリキュラム改善	B	a	・特に小学校における外国語活動については、年次計画的な拠点校の設置と計画的な連携により、新学習指導要領実施に向けてのカリキュラムを整えるとともに、各種研修会を実施し、指導内容や指導方法の理解が進んだ。 ・専門高校のカリキュラム改善が進んできている	B	b
児童生徒へ理科・科学やものづくりの楽しさや本質を伝える。	C	c	・理科教育支援員は応募者が少なく、すべての希望校へ配置できなかった。 ・「鳥取県科学技術教育研究優秀賞」事業を実施	C	c

(2) 豊かな人間性、社会性の育成

【 目指すところ 】	H22			H21実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
道徳教育や人権教育の充実	B	a	・道徳教育推進事業を予定通り実施中。教育課程研究会に道徳部会を新設し新学習指導要領の趣旨周知を図った。 ・実践協力校の研究成果物の刊行に向け、計画通り進行中。	B	b
読書活動の推進	A	a	・小中学校の朝読書の実施率95%以上を維持。全小・中学校への司書教諭配置。司書教諭の図書館活動の時間保障のため、5時間以上の授業時数軽減の実施。司書教諭連絡協議会の実施。 ・県立高校では、朝読書を含む一斉読書の実施校数が増加した。	A	a
体験活動・文化芸術活動の充実	B	a	・小学校86%、中学校80%の学校で芸術鑑賞又は体験型芸術・文化活動を実施。 ・海外研修旅行や学校間交流を多くの県立高校で実施中。	B	b
不登校・いじめ問題等への取り組み	B	a	・不登校児童生徒数は8月末の段階で前年に比べ減少、問題行動の件数（暴力行為、器物破損等）も横ばいの状況。 ・いじめの認知件数は、現段階で深刻なものは報告されておらず、今後も生徒指導上の諸問題の未然防止に向けて不登校対策事業を実施しているが、まだ、不登校、問題行動の増加に対応した全県的な動きの不足を感じる。 ・電話・来所・メール等で相談を実施中。「(新規)高等学校における不登校(傾向)生徒支援事業」は計画通り推進中。	B	b

(3) 健やかな心身の育成					
【 目指すところ 】	H 2 2			H 2 1 実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
学校体育の充実	B	a	・武道実技講習会、体育実技講習会、教育課程研究集会を予定どおり実施し、新学習指導要領の趣旨及びその内容にそった学習のあり方を伝達した。	C	c
健康教育の充実	B	b	・専門家やスクールヘルスリーダーを派遣し、児童生徒の心や性等の健康問題への対応を行った。 ・新型インフルエンザ対応マニュアルを見直し、研修会を開催し、今後の対応について理解を図った。	B	b
性教育の充実	B	b	・性教育・エイズ教育研修会を開催し、校内で性教育を推進していくための重要性と具体的な方策について理解を深めることができた。	B	c
薬物乱用防止教育の充実	B	b	・福祉保健部と連携した「ダメ。ゼッタイ。」普及運動を実施し、高校生の意識高揚を図ることができた。	B	c
食育の推進	B	a	・栄養教諭を中核とし、食育の推進を図ることができた。 ・各研修会で食に関する指導の指導力向上を図ることができた。市町村への助成等の取組をとおして、地産地消率が1学期58%であった。	B	b

(4) 社会の進展に対応できる教育の推進					
【 目指すところ 】	H 2 2			H 2 1 実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
情報社会を主体的に生きる人材の育成	B	b	・計画した担当者の悉皆研修及び校種別の専門研修を実施した。	B	c
環境教育の推進	B	b	・環境教育推進のための資料の作成・活用や研修への派遣などを実施。全体計画の作成やT E A S 種の取得等は一層の働きかけが必要 ・4月以降1校がT E A S を取得した。	B	c
鳥取県に愛着を持った人材の育成	B	c	・各小中学校で、生活している地域についての学習を実施。道徳の時間で郷土資料を扱った授業の実施。地域人材を活用した学校教育の推進。	C	d
主体的に行動する人材の育成	B	c	・全国学力学習状況調査の主体的な行動に関わる項目の結果において、肯定的な回答率が増加。		

(5) 幼児教育の充実					
【 目指すところ 】	H 2 2			H 2 1 実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
幼児教育の充実	B	b	・多くの地域で小学校との連携が具体的な取組となってきたが、私立幼稚園と小学校、都市部における連携が進んでいない。 ・多くの地域で小学校との連携が具体的な取組となってきたが、私立幼稚園と小学校、都市部における連携が進んでいない。	C	c
子育て支援の充実	B	a	・様々な子育て支援のための事業を実施しているが、認定こども園の設置促進など、今後更に充実を図る必要がある。	C	c

(6) 特別支援教育の充実					
【 目指すところ 】	H22			H21実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
自立と社会参加の促進を目指した教育環境の整備	B	a	・高等特別支援学校の設置に向けて、準備委員会を設け、学校の規模や学科等について意見を聴取、近く教育委員会としての方針を決定	B	b
特別支援学校のセンター的機能の推進	B	a	・新たに東・西部地区にも発達障がい教育拠点を設置し、教育相談、通級指導の体制を充実	B	b
幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校での指導・支援の推進	B	a	・通常学級における特別支援教育の充実を図るため、手引書を作成中 ・研修企画立案の実施。今後の周知活動への準備中	B	b
「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を活用した指導の推進	B	a	・市町村教育委員会と連携しながら、各学校での活用に向けた働きかけを継続して実施	B	b
発達障がいを含む障がいのある児童生徒等の一貫した指導体制の確立と関係機関との連携の充実	C	b	・中学校から高等学校への移行及び高等学校での支援を充実するためのシステム作りに向けた検討が必要 ・市町村教育委員会との連携。特別支援学級への重点的支援体制	C	b
移行支援の充実	B	b	・ジョブコーチセミナーへの教員派遣及び就労サポーター等による職場開拓等を継続して実施	B	c
教員の専門性の向上	C	a	・免許法認定講習の受講対象者を広げるとともに積極的な受講勧奨により参加者が増加	C	c
保護者支援の充実	C	b	・福祉との連携による保護者の相談支援体制の整備の充実が必要	C	c
特別支援教育の普及啓発	C	a	・特別支援教育の推進に向けた一般県民に対する普及啓発の充実が必要	C	c

3 学校教育を支える教育環境の充実

(1) 児童・生徒減少期における学校の在り方

【 目指すところ 】	H22			H21実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
公立小・中学校の在り方	B	a	・学級編制、定数改善等の国の動向を注視しながら、市町村教育委員会との協議を進めている	B	d
今後の高等学校の在り方	B	c	・県立高校改編計画の策定に向けて検討中。	C	d

(2) 教育現場の創意工夫を活かした特色ある学校運営の推進

【 目指すところ 】	H22			H21実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
県民に信頼される学校づくり	B	a	・学校評議員制度等の設置はほぼ達成 ・学校運営の合理化は取組に学校差。 ・今年度から第三者評価を本格実施した。	B	b
学校組織運営体制の充実	B	b	・コンプライアンス確立に向けた教職員の意識啓発やコンプライアンス研修等を計画的に実施している。 ・新職設置の効果が徐々に出てきている。	B	c
教職員の過重負担・多忙感	C	d	・取組を進めているが、成果として表れていない。勤務状況の把握のため、教職員勤務実態調査を実施予定。	C	d
教職員の精神性疾患	B	c	・H22.9末 時点での休職者数 20名 (H21.9末 34名 14名減)	D	d

(3) 使命感と実践力を備えた教職員の養成・確保・配置

【 目指すところ 】	H22			H21実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
教員の資質向上や指導力・授業力の向上	B	b	・エキスパート教員の認定者数の拡充とともに、授業公開等による優れた指導技術の普及を推進し、所属校を中心に教員の指導力向上に成果があった。 ・県立高校では普通教科5教科すべてでエキスパート教員を認定できた。 ・教育センターでは、各学校で実施する被評価者研修を支援するためのプレゼン（演習）資料を提供できた。 また、前年度の課題をもとに研修計画を見直し、実施したが、「めざす教師像」との関係性を明確にし、より効果的な研修を実施するよう体系を見直す必要がある。	B	b

(4) 安全・安心な教育環境の整備					
【 目指すところ 】	H 2 2			H 2 1 実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
公立学校の耐震化	B	a	・県立学校の耐震化はほぼ予定どおり進捗している	B	b
学校内外の安全確保	B	b	・学校安全研修会を教員対象に開催学校の安全教育・安全管理の充実と教職員の資質向上を図った。 ・地域ぐるみ学校安全体制整備推進事業、学校安全ボランティア講習会等により、地域ぐるみによる子どもたちの安全確保を図った。	B	c
安全・安心な学校給食	B	a	・衛生管理講習会等の研修会を実施し、調理場における衛生管理の徹底を図る。	B	b
学校図書館の整備の推進と教材整備の推進	B	a	・学校の要望にそって書架を整備。 ・小学校1年から4年までの家庭学習用のドリルを教育センターホームページに公開中。また、小学校5年から中学校3年までのドリルを作成中。	A	b
修学資金の支援	B	a	・奨学金を必要としている者への貸与を実施した。	B	c

(5) 私立学校への支援の充実					
【 目指すところ 】	H 2 2			H 2 1 実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
私立学校の振興	B	a	・各種事業により私立学校の様々な取り組みに対し支援を行っている。 ・私立幼稚園の保育料軽減に対し助成を行っている。預かり保育等に対して助成を行うこととしている。	B	/
学校経営の健全性の向上・入学者確保	B	a	・新規事業の創設など、私立学校の生徒・保護者負担軽減を図っている。 ・平成23年度の園児募集について、協力を行っているところ。		
私立学校の耐震化	B	a	・度々までに、予定している私立高等学校全校で耐震診断終了予定。 ・私立幼稚園への耐震診断の補助を実施	B	/

4 文化・芸術の振興と文化財の保存・活用

(1) 文化・芸術活動の一層の振興

【 目指すところ 】	H22			H21実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
文化・芸術振興による地域の「創造性」の向上	B	a	・アートスタート事業や芸術鑑賞教室等の実施により若年層への芸術を体験する機会を提供したほか、とりアート事業や鳥取県美術展覧会等の開催や鳥取県文化芸術活動支援補助金などにより、文化活動者の支援と県民への芸術文化鑑賞機会の提供することができた。	B	b

(2) 文化財を大切にし、身近に感じ、親しむことができる地域づくり 世界遺産を視野に入れ、三徳山世界遺産登録運動推進協議会を中心に調査研究・情報発信を実施

【 目指すところ 】	H22			H21実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
文化財を大切にし、身近に感じ、親しむとができる地域づくり	B	b	・おおむね計画どおりに事業を実施。 ・世界遺産を視野に入れ、継続的に調査研究・情報発信を実施する必要がある中で、年次ごとに計画を策定し、事業を実施している。	B	b

5 スポーツの振興

(1) 心豊かで活動的な地域スポーツ社会の構築

【 目指すところ 】	H22			H21実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
少年期のスポーツ活動の適正化	B	c	・「小学生のスポーツ活動に関するアンケート」結果をもとに鳥取県生涯スポーツ推進協議会や市町村教育委員会生涯スポーツ担当者会議等で課題について情報発信することが出来た。	D	d
生涯スポーツ社会の実現	C	b	・「県民の運動・スポーツに関する意識・実態調査」の分析をもとに、ウォーキング立県に向けた取組を推進する。総合型地域スポーツクラブの取組や広域スポーツセンターの組織及び機能の見直しについては、現在検討中。	B	c
トップアスリートの育成（競技力の向上）	D	c	・明確な結果が数値で確認できないため、現時点での評価は難しいが、来年度に向けての新たな取組は必須。	D	d

6 鳥取県教育振興基本計画の推進に向けた体制づくり

(1) 県民との協働による開かれた教育行政の推進

【 目指すところ 】	H22			H21実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
県民とともに進める開かれた教育行政	B	a	・教育委員会議の議事録、教育委員の活動状況やコラム等のホームページへの掲載など、情報公開等に努めた。	B	c
教育問題等への迅速かつ的確な対応	B	a	・スクールミーティングの実施等により、現場の課題やニーズの把握に努めた。		
鳥取県教育振興基本計画の確実な推進	B	a	・「平成22年度アクションプラン」の作成や「平成21年度教育行政の点検及び評価」を実施し、PDCA サイクルの確立に努めた。	C	c

(2) 市町村、国、高等教育機関など関係機関との連携・協力の推進

【 目指すところ 】	H22			H21実績	
	中間評価	関係評価	評価の理由	自己評価	関係評価
市町村との連携・協力体制の充実	B	a	・定期的な連絡協議会や教育行政情報の提供等により、情報共有に努めるとともに、資質向上の支援のための教育委員研修会を実施。	B	b
高等教育機関との連携・協力の一層の推進	B	b	・「学校支援窓口一覧」をホームページに掲示し、県内学校に情報提供するとともに、鳥取大学や鳥根大学と意見交換を行い、情報共有を図っている。	B	c